

木村静雄教授の退任記念論文集を發行 するにあたって

経済学部長 戸木田 嘉 久

保健・体育の發展のために活躍されてきた木村静雄先生が、来る昭和五十二年三月末日をもって、永年勤められてきた本学経済学部教授の職を去られることになりました。本学の六十五才という定年制度のためにやむをえないこととはいえ、学園のキャンパスから先生のお姿がみられなくなるということは、私どもにとって淋しさを禁じえないところであります。

先生は、昭和二十年十月、立命館専門学校教授として赴任され、昭和二十一年立命館大学予科教授、昭和二十五年四月立命館短期大学教授、昭和二十六年七月立命館大学教授いらい今日にいたるまで、三十有余年にわたり本学の教員として勤めてこられました。そしてこの間、教育・研究のうえで大きな足跡をのこされました。

先生は、新制大学の発足と同時に、他大学にさががけ本学において体育を正課必修にとりいれ、いろいろと困難な条件のなかで、保健体育教室の基礎をきづいてこられました。今日、本学の保健体育教育は、一般教育、語学教育、専門教育とともに、全国の大学のなかでもっとも民主的な先進的な内容をもつものとして注目されるに

いたっていますが、これは先生の指導的役割と尽力によるところが、きわめて大きかったといわねばなりません。また本学は、課外体育活動の民主的的改革においても他の大学にくらべて先進的な位置をしていますが、バレー・ボール部々長として、また課外体育委員会委員として、この面でも先生は、地道な努力をつづけてこられました。さらに、ひろく体育・スポーツ界においても指導的な役割をはたし、学生をはじめ多くの人びとの健康維持、体力づくりに尽されてこられました。

なおその間、先生は保健学を中心とした研究活動もまた精力的につづけられ、昭和三十三年には京都府立医科大学において、「衝撃に依る神経性ショックに関する研究」で医学博士の学位を取得されました。その後さまざまな学会で活躍され、とくに日本体育学会京都支部においては、教育・発達専門分科会を中心に自らの研究と後進の指導にあたられて、昭和五十年度には支部会長も歴任されました。また昭和五十年十一月には、メキシコ・シテイでおこなわれた国際学校保健医学会で、報告された共同研究「スポーツにおけるショックにかんする研究」など、積年の研究成果は国際的にも高く評価されました。

このたび先生の人生の一区切りとしての定年退職にあたり、立命館大学経済学会は、ここに多年の御功績をたえ、『立命館経済学』の記念論文集を特集することになりました。ささやかな企画ですが、先生の新しい門出にたいする餞ともなればと存じます。

最後に、先生のいっそうの御健康と御活躍をねがって、お別れの言葉といたします。

一九七七年二月